

## 新しい鹿児島市立病院について

市立病院では、平成 27 年度の新築移転に向けた取り組みを進めておりますが、このたび新病院の実施設計がまとまりました。

新しい病院は、市民の皆さんが 24 時間安心して生活できる医療機能を備え、高度で質の高い医療を提供し、市民の生命と健康を守る病院を目指します。

今後、平成 24 年度に建設工事に着手し、計画的に取り組を進めてまいります。



新市立病院の完成予想図（北西側から見たイメージ）

～緑と光にあふれる病院～

## 1 施設の配置



病院本棟を敷地南側に、駐車場を北側に、エネルギーセンターを東側に配置します。  
唐湊線沿いに患者・家族などの病院利用者や地域住民等が利用できる緑の散策路を整備します。

自家用車の利用者が待たずに駐車できるように、十分な駐車台数を確保するほか、東出入口近くに屋根のある身障者用駐車場（9台分）を設けます。また、自家用車やバス、タクシーの利用を考慮し、十分な長さの屋根付きの車寄せを設けます。

## 2 施設規模

新市立病院では、入院患者の平均在院日数の短縮等により、病床数は現病院と比べて減少しますが、敷地面積は約2.8倍、建物の延べ面積は約1.3倍、駐車台数が約3倍に拡充します。

項目	現病院	新病院
(1) 敷地面積	15,863 m <sup>2</sup>	44,632 m <sup>2</sup>
(2) 延べ面積	39,971 m <sup>2</sup>	51,909 m <sup>2</sup>
(3) 建物階数	地下1階、地上7階	地上8階、塔屋1階
(4) 建物高さ	約35m	41m
(5) 構造 (病院本棟)	鉄骨鉄筋コンクリート造 鉄筋コンクリート造	鉄骨造、一部鉄骨鉄筋 コンクリート造(免震構造)
(6) 病床数	687床 (うち一般病床641床)	約580床 (うち一般病床574床)
(7) 駐車台数	222台	647台

## 3 各階構成図

関連する部門を近くに配置し、診察や検査のための移動を短くするとともに、スタッフ動線を短縮し、業務の効率化を図ります。



- ・ 外来部門と画像診断部門・検査部門を近くに配置
- ・ 手術部門とICU(集中治療室)を隣接配置
- ・ 救命救急センターと救急ICUを専用エレベーターで直結
- ・ 救命救急センターと画像診断部門を隣接配置
- ・ 薬剤、中央材料室、中央倉庫など物品供給を行う部門を集約配置

## 4 新市立病院の特徴

### (1) 医療機能の充実

#### ① 救急医療

県内唯一の救命救急センターとして、急性心筋梗塞や脳卒中、外傷などの重症患者を24時間体制で受け入れており、新病院では、救命救急センターの拡充等により、さらに機能向上を図ります。

- ・ 手術対応の処置室の設置
- ・ 診察室、観察室の増加
- ・ 初期治療室の拡充
- ・ 屋上ヘリポートの設置

救命救急センターは画像診断部門と隣接し迅速な検査に対応します



#### ② 小児救急医療

小児救急医療拠点病院として、小児の重症救急患者に対応します。

#### ③ 成育医療センター

産科、新生児科、小児科、小児外科を成育医療センターとして統合・発展させ、出生前から小児期までの一貫した医療体制を整えます。

- ・ MFICU 6床  
(リスクの高いお産に備えるための集中治療室)
- ・ NICU(新生児集中治療室)36床
- ・ PICU(小児集中治療室)4床
- ・ 手術対応の分娩室の設置
- ・ 新生児専用の手術室の設置

新生児専用ドクターカー「こうのとりの号」



#### ④ がん治療

地域がん診療連携拠点病院として地域のがん診療の中核となり、質の高いがん医療を提供します。

- ・ 中央手術室の拡充
- ・ 高度放射線治療機器の導入
- ・ 外来化学療法室の拡充
- ・ 核医学の充実

## (2) 療養環境の充実

### ① 低層部（外来など）

外来など多くの人を訪れる1、2階は、誰にもわかりやすく、利用しやすい配置、サインにします。

正面玄関エントランスホール左手側に再来受付機を置くほか、右手側には、売店や食堂など利便施設を配置します。

エントランスホール正面に総合受付を置き、外来診察室は、外来患者の主要な動線となるホスピタルストリート（2層吹き抜け）に沿って1、2階に配置します。

段差や幅など歩きやすさ（使いやすさ）に配慮した廊下や階段とするほか、主要な出入口やエレベーターホールなどへのモニターカメラ設置によりセキュリティ機能を充実させます。

建物入口の正面に配置する総合案内、総合受付



外来診療の主要動線となるホスピタルストリート



### <外来部門について>

- ・関連する診療科ごとにブロックを形成
- ・ホスピタルストリートに沿って配置するわかりやすいブロック受付
- ・外来の1・2階を行き来しやすいようにホスピタルストリートの中央部にエスカレーターとエレベーターを設置
- ・採光に配慮した明るいブロック待合
- ・電子カルテの導入（1患者1カルテ）

### ② 高層部（病棟）

外光を取り込んだ明るい病棟とするほか、多床室は4床室とし、1床当たりの十分な面積を確保し、車椅子の利用にも配慮します。

スタッフステーション（SS）と病室を近づけるとともに、各病室の看護動線の中心にSSを配置することにより、迅速できめ細やかな看護の提供と、業務動線の短縮による効率化を図ります。

各病室の近くにトイレを分散して配置するほか、シャワー・トイレを備えた個室病室、食堂、デイコーナー、介助浴室などを整備します。

明るい病棟、病室とスタッフステーションの近接



病棟4床室

### <病室について>

- ・部屋の環境に応じて冷房・暖房の同時の要請に対応
- ・病室の患者名は、病院情報システムと連動した液晶表示とし、画面タッチにより表示（プライバシー保護）
- ・病室から直接スタッフのPHSにナースコール情報を送信（迅速な看護）



### (3) 災害への対応

災害拠点病院として大規模災害時にも医療機能を維持できるようにします。

- ① 地震に強い建物にするため、免震構造を採用します。
- ② 災害時の患者搬送や物資運搬ができる屋上ヘリポートを設置します。
- ③ 万一の浸水に備え、地下階をつくりません。
- ④ 患者受入れ用のオープンスペース（ホスピタルストリートや多目的ホール）を確保し、医療用電源、酸素・吸引設備を設置します。
- ⑤ 災害等による停電に備え、自家発電装置を設置します。また、生命維持に必要な医療機器には無停電電源装置から電気を供給します。
- ⑥ 敷地内の井戸水を濾過・高度処理し、飲用水を確保します。
- ⑦ 給湯用ボイラー設備は、通常時は都市ガス、災害時には貯蔵したA重油を使用して運転します。

### (4) 環境への配慮

地球温暖化防止（二酸化炭素排出の抑制等）や省エネルギー（自然エネルギーの活用等）に配慮します。

- ① 病院本棟南側に太陽光発電設備を設置します。
- ② エネルギーセンター屋上にボイラーの補助熱源として太陽熱集熱パネルを設置します。

太陽光発電設備（環境未来館屋上）



太陽熱集熱設備の設置イメージ



- ③ ホスピタルストリートや外来待合、1階・2階廊下、病棟デイコーナー、屋外照明の一部にLEDを使用します。
- ④ 昼間の冷房に使う水を夜間電力を活用して、冷却し蓄熱します。
- ⑤ 外来屋上を緑化するとともに、エネルギーセンターにも緑化用の壁面を設けます。
- ⑥ BEMS（エネルギー計測と中央監視装置による運転改善）の採用によりエネルギーの見える化を行い、エネルギー消費量を削減します。

## 5 今後のスケジュール

- ① 工事着工 平成 24 年度
- ② 竣工 平成 26 年度
- ③ 移転・開院 平成 27 年度

鳥瞰図（南西側上空から見たイメージ）



新市立病院の南西側上空から見たイメージです。

敷地は、北側（図の左側）が市道みずほ通線に、西側（図の手前側）が市道唐湊線に沿っており、市道唐湊線の北側（図の左側）は鹿児島中央駅に至ります。

南側は、市で整備する緑地が隣接しており、南東側（図の右奥）には、鹿児島大学のキャンパスが広がっています。

病院本棟は、ページュを基調とした優しい色合いとし、屋上にはヘリポートを整備します。

建物の南側、救命救急センターの庇の上に太陽光発電設備を設置するほか、エネルギーセンター屋上には太陽熱集熱パネルを設置するなど環境に優しい施設とします。

また、病院本棟に屋上緑化を行い、駐車場を含め敷地全体に植栽を行うなど、緑あふれる病院にします。